

社会を彩る化学の力を、 信頼とともに未来へ

当社の起源は、1910年代の染料業界が激動に揺れた時代にさかのぼります。第一次世界大戦の勃発により、当時日本が依存していたドイツからの染料輸入が停止。国内では染料価格が急騰し、産業界全体が深刻な混乱に直面していました。

こうした中、創業者の井村健次郎は、スイスのサンド社から合成染料「キシレンブルーVS」をいち早く輸入。その浅葱色の染料で染め上げられた振袖は、東京・新橋の芸者衆に広まり、やがて“新橋色(新橋ブルー)”として全国的な流行を生み出しました。

人々の感性に寄り添いながら、化学の力で社会に彩りをもたらしたこの出来事こそ、当社の出発点であり、“信頼に応える”という精神の原型でもあります。

創業100年を超えた今も、その姿勢は変わりません。社員、取引先、地域社会、株主、そして次世代を担う子どもたち——あらゆるステークホルダーと誠実に向き合い、社会にとってなくてはならない存在であり続けたい。その思いを込めて、当社は「六方よし」の精神を掲げています。

このサステナビリティレポートでは、当社の理念と行動の軌跡、そしてこれからの挑戦についてご紹介します。信頼を積み重ねてきた企業として、未来にどのような価値を届けていくのか。ぜひご覧ください。



スイス製の合成染料で染められた“新橋ブルー”の振袖が全国的に流行

変化の時代に、 「信頼」でつなぐ価値を

当社は、1923年の創業以来、化学品専門商社として多様な業界に携わりながら、社会の変化とともに歩んできました。企業の枠を超え、人と社会の信頼関係の中で価値を共創すること。それが当社の事業の本質であり、変わらぬ原動力です。

2023年には創立100周年を迎えました。節目を超え、次の100年に向けて当社は「VISION2033」を掲げています。これは、事業ポートフォリオの最適化、グローバルネットワークの強化、そして成長基盤への投資を柱とする、中長期的な挑戦です。

その根底には、「六方よし」の考え方があります。

売り手・買い手・世間という商いの基本に、環境・株主・社員を加えた6つの視点は、当社がこれからも信頼される存在であり続けるための指針です。サステナビリティは、こうした価値観を日々の事業活動に落とし込むための実践でもあります。環境配慮型の素材提案、社員一人ひとりの成長支援、ガバナンス体制の強化など、さまざまな側面から「信頼に応える商い」を次の時代につないでいくことが、当社の使命だと考えています。

このレポートでは、当社の理念に根ざした取り組みと、その先に見据える未来像を、六方よしの視点でお伝えしています。

今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 真銅 淳

次の100年へ — VISION2033 が描く、オー・ジーの未来図

■ 新たな価値創出で、 六方すべてに豊かさを

2023年、創業100周年を迎えた当社は、次の100年を見据えた長期経営計画「VISION2033」を始動させました。これは2033年3月までの10年間を見通した指針です。本計画の根底にあるのは、「六方よし」の精神であり、あらゆるステークホルダーにとっての“豊かさ”を追求することを意味します。これまで築いてきた化学品専門商社としての機能と信頼をベースに、私たちは社会の持続可能性に寄与する新たな価値を生み出す存在を目指します。



■ VISION2033 スローガン： 未来への3つのステージ

長期経営計画「VISION2033」では、次の100年に向けた成長の道筋を3つのステージで描いています。「六方よし」の精神のもと、これらのステージを通じて新たな価値を創出し、より良い未来を提供してまいります。

Stage 1 (2023~2025年度)

変革 Creative Change

新たな時代に対応するため、思考と行動を変革し、異次元のステージに挑戦します。



Stage 2 (2026~2028年度)

進化 Creative Evolution

急激な環境変化に柔軟に対応し、持続可能な成長を遂げるための進化を目指します。



Stage 3 (2029~2032年度)

躍動 Creative Dynamism

持続的な成長に繋がる事業創造を力強く進め、世界中で躍動する企業を目指します。

■ 3つの基本方針と戦略で、 持続可能な成長へ

こうしたスローガンのもと、当社は社会の期待に応え続ける企業へと進化していきます。そしてビジョンを確かなものとするために、私たちは3つの基本戦略を軸に行動しています。当社がこれからの10年をどう生き抜くかを示す、具体的なアクションプランでもあります。

① 事業ポートフォリオの最適化

既存の基盤事業を深掘りしながら、社会トレンドを踏まえた新たな事業領域を設定。成長分野であるライフサイエンス、環境・エネルギーなどの領域への展開を進めます。

② グローバルネットワークの強化

これまでに築いた海外拠点網を基盤に、世界各地の企業・パートナーと連携。地域ごとに戦略的な事業展開を推進し、オリジナリティのあるビジネスを構築します。

③ 成長基盤確立に向けた投資

M&Aや開発への事業投資、人材戦略への投資、さらにはDX(デジタルトランスフォーメーション)への投資を加速。専門性と多様性を掛け合わせた企業力強化に注力します。

挑戦を支える機能戦略と、めざすべき2033年の姿

当社が掲げる3つの基本方針を着実に実行していくためには、それを支える“仕組み”の整備と強化が不可欠です。そこでVISION2033では、事業戦略と並行して、全社横断で取り組む5つの機能戦略を定めました。これにより、経営資源の活用を最適化しながら、各部署・各拠点が一体となって成長を目指す体制づくりを進めています。こうした機能面の強化は、基本戦略を着実に前進させるだけでなく、当社が2033年に目指すグループ目標を達成するうえでも、極めて重要な役割を果たします。

■ 5つの機能戦略

① 人事戦略

成長に向けた人財の確保と、多様な志向に基づく挑戦を喚起するための環境づくりを進めています。社員一人ひとりが能力を最大限に発揮できるよう、教育制度の充実やキャリアパスの明確化を図っています。

② 広報戦略

全てのステークホルダーに対して、適切な情報発信を行い、良好な関係を構築しています。企業の取り組みや成果をタイムリーに伝えることで、信頼性の向上とブランド価値の強化を目指しています。

③ 財務戦略

事業拡大に向けた積極的な投資を実施しつつ、健全な財務体質の維持にも注力しています。効率的な資金運用とリスク管理を通じて、安定した経営基盤を確立しています。

④ 資本政策

安定した株主構成を維持し、株主全体の利益を追求する企業を目指しています。持続的な企業価値の向上を図るため、透明性の高い経営を推進しています。

⑤ グループガバナンス

グループ全体のガバナンス体制を構築し、透明性のある公正かつ健全な事業活動の継続を図っています。コンプライアンスの徹底と内部統制の強化により、信頼される企業グループを築いています。

■ グループパーパス

オー・ジーグループは、長年にわたり化学を基盤とした事業を展開し、社会に貢献してきました。しかし、社会や産業構造の変化が加速する中で、グループ全体としての方向性をより明確にし、持続的な成長を実現することが求められています。こうした背景のもと、2023年にグループパーパスを制定しました。

Create for the future

化学のひらめきで、人々に幸せを

■ グループ目標

VISION2033では、理念の実現に向けた具体的なマイルストーンとして、以下の数値目標を掲げています。

グループ単純合算目標
(2033年3月期)

売上高 4,000 億円

売上総利益 380 億円

単体目標
(2033年3月期)

売上高 1,800 億円

売上総利益 160 億円

これらの目標は、単なる経営指標ではなく、「六方よし」の理念を具体的に可視化するものです。機能戦略を通じて組織の土台を強化し、すべてのステークホルダーにとっての豊かさの実現を目指してまいります。



「継ぐ力、つなぐ責任」— 理念と未来を語りあう

2025年6月、オー・ジーは12年ぶりに社長交代の節目を迎えました。長期経営計画「VISION2023」で築いた基盤を引き継ぎ、「VISION2033」Stage 1の推進とともにバトンが渡された新体制。その背景には、企業としての持続可能性と、変化を恐れず挑戦する文化の継承があります。化学品専門商社としての価値を磨き続け、社会から必要とされる存在であり続けるために、会長と新社長が“継ぐ力、つなぐ責任”を軸に、理念と未来について語り合いました。



代表取締役会長 福井 英治

■ 今回の体制変更に向けた想いとは？

代表取締役会長 福井英治(以下、福井)：

当社は「VISION2023」で10年単位の長期戦略に初めて挑み、大きな成果を挙げることができました。売上総利益や海外売上比率の伸長をはじめ、グローバル化による体質の変化を実感しています。この成果を踏まえ、次の10年「VISION2033」に向かうにあたり、経営の持続性を高めるためには、体制の継承が必要だと判断しました。

代表取締役社長 真銅 淳(以下、真銅)：

(社長就任の打診を受けた時)最初は大変驚きましたが、覚悟を決めて大役をお受けしました。経営の本質を見極め、変えるべきことと守るべきことを見定めながら、これからの会社経営に責任を持って挑んでいきます。そして、全社員と共に歩む姿勢を大切にしていきたいと思っています。

■ 新体制における二人の役割とは？

福井：私は今後、グループ全体を俯瞰する立場で経営に関わっていきます。グローバル化に伴ってグループ会社が増加するなか、理念の浸透を確認しつつ、経営資源の最適配置や戦略の整合性を図ることで、全体のガバナンスを強化していきます。

真銅：私は、当社の執行責任を担い、現場の声を吸い上げて経営判断を下します。双方向の対話を通じて実行力の高い組織を目指し、グループ全体の成長にも貢献できる体制を築いていきます。



VISION2033 Stage2に向けた覚悟と挑戦

真銅：Stage2は、構想を現実に移す「実行のステージ」だと捉えています。今後は、社員一人ひとりが自分ごととしてVISION2033を理解し、部署を超えて連携しながら価値を生み出すことが求められます。私自身も率先して挑戦を続けることで、失敗を恐れず挑める風土をより確かなものにしたいと考えています。

福井：これまでの10年で体質は大きく変わりました。これからは個人と個人がつながり、新しい価値を生み出す「集合体」としての強さが鍵になります。そして私たちの文化である“挑戦を歓迎する風土”を未来にもつなげていく必要があります。私自身、若い頃に数多くの苦勞がありました。それを乗り越えられたのは周囲が前向きに受け止めてくれたからでした。その社風こそが、オー・ジーの強みだと確信しています。

未来を共につくるパートナーとして

真銅：私たちは、社会に必要とされ続ける企業であることを目指しています。そのためには、社内外の関係者と信頼関係を築きながら、新たな価値を共創していく姿勢が欠かせません。変化の波をチャンスと捉え、持続的な成長に挑んでいきます。ステークホルダーの皆さまとともに、柔軟に、スピーディーに未来を切り拓いていく覚悟です。

福井：理念を軸に据えながら、環境の変化にしなやかに対応していく姿勢が、これからの時代には求められます。私たちが大切にしてきた「六方よし」の精神——売り手よし、買い手よし、世間よし、環境よし、株主よし、社員よし——は、どのような局面でも判断の拠り所となるものです。変化を楽しみ、社員一人ひとりの挑戦を後押しする企業風土があつてこそ、未来をつくる力が生まれます。私たちはこれからも、信頼されるパートナーとして、皆さまとともに歩んでまいります。

代表取締役社長
真銅 淳



サステナビリティ基本方針

オー・ジーは、化学品専門商社として「人と化学の調和」「未来への挑戦と創造」「豊かさの追求」を経営理念に掲げ、事業を通じて持続可能な社会の実現に貢献することを目指しています。

当社は、社会・環境・経済のバランスに配慮しながら、サステナビリティを経営と事業の中心に据え、「六方よし」の考え方、一売り手よし、買い手よし、世間よし、環境よし、株主よし、社員よし—を基本精神として、以下の方針に基づき活動を推進します。

1

価値の共創による社会課題の解決

当社は、取引先や地域社会との協働を通じて、環境・健康・暮らしの向上など、社会課題の解決に貢献する製品やサービスを提供します。

2

環境への責任と挑戦

脱炭素、資源循環、生物多様性保全に取り組み、持続可能な素材の供給と、その普及に貢献します。

3

人を育み、組織を活かす

多様な社員が互いに尊重し、挑戦し合える職場環境を整え、人材の成長とWell-beingを支える仕組みの構築を進めます。

4

信頼を支えるガバナンスと対話

コンプライアンスの徹底、リスク管理、情報開示を通じて、株主・顧客・社会との健全な関係を築き、信頼に応える経営を行います。

5

サステナビリティ視点での事業活動

すべての事業活動においてサステナビリティの視点を組み込み、ISO 14001やISCC PLUSなどの国際的な枠組みを活用しながら、グループ一体での推進体制を強化します。

この方針のもと、当社は“化学の力で人と社会を豊かにする”という原点に立ち返りながら、新たな価値を創出し続けます。

六方よしに基づく、サステナビリティレポートの全体構成

「六方よし」の精神は、オー・ジーが社会との関係性を築くうえで大切にしている価値観です。本レポートでは、この六つの“よし”を軸に、当社の取り組みを5つの章に分けてご紹介します。

第1章	売り手・買い手よし	取引がつなぐ信頼 — 共に創り、豊かさを社会へ 9 取引先との共創、商社の価値を支える人の力、価値提案
第2章	世間よし	化学の力で、社会の期待に応える 11 事業活動を通じた社会貢献、エシカル消費への対応、薬事・分析センター、スポーツ振興
第3章	環境よし	化学品専門商社として、社会の環境課題に応える力を 13 環境方針、ISO14001、ISCC PLUS認証、環境配慮素材、再生原料
第4章	株主よし	信頼に応え、未来を共につくる経営へ 17 経営姿勢と戦略、コーポレートガバナンス
第5章	社員よし	ともに育ち、ともに働く — 信頼と成長の職場づくり 19 人事理念、キャリア制度、健康経営、福利厚生制度、多様性
巻末セクション		クロージング 23 社外役員レビュー、役員一覧、イベント、沿革、国内・海外拠点、データ集

第1章

六方よし

売り手・
買い手よし

取引がつなぐ信頼 — 共に創り、豊かさを社会へ

オー・ジーは、化学品専門商社として100年にわたり、原料や製品を“つなぐ”役割を果たしてきました。しかし、当社がつなぐできたのはモノだけではありません。企業と企業、人と人、そして社会と社会をつなぎ、そこに信頼と価値を生み出してきました。「売り手よし」「買い手よし」のその先には、取引を通じて豊かさを届けるという使命があります。その起点となるのは、人と人との関係に基づく“信頼”です。そして、それを支えているのは、現場で動く社員一人ひとりの力にほかなりません。取引先と共に未来を描き、新たな価値を共創する姿勢が、当社の競争力の源泉となっています。本章では、「つなぐ力」「信頼」「人」「共創」という4つの視点から、当社がどのようにして社会に価値を循環させているのかを紐解いていきます。

価値循環の原動力としての「つなぐ力」

当社は、化学品専門商社として100年にわたり社会の基盤を支える“つなぎ役”を果たしてきました。当社の使命は、単なるモノのトレーディングにとどまらず、人と人、企業と企業、ニーズとソリューションを結びつけることで、新たな価値を創出し、より良い未来を提供することです。

当社が目指すのは、モノのやり取りではなく「価値の共創」です。ある製品が誰に、なぜ必要とされているのか。その背景にある社会課題にまで視野を広げ、最適な素材や解決策を提案することが、商社としての真価であると考えています。こうした商取引が顧客の競争力を高め、産業を育み、社会全体の豊かさにつながると信じています。

また、この“つなぐ力”は、時代の変化に柔軟に対応し、価値あるマッチングを生み出す創造性にも通じています。商社が果たす役割は、単なる仲介にとどまらず、産業の変革や持続可能性の実現に貢献するハブであると考えています。

信頼を起点とした共創の広がり

共創の出発点は「信頼」です。国内外を問わず、取引先との関係は目の前の商談を超え、その先の社会や地球環境にまで広がる視点を大切にしています。

とくに海外市場では、現地の文化や規制に通じた社員が要となり、長期的な信頼関係を築いてまいりました。また、環境配慮型素材や認証対応などへの取り組みも、顧客が必要とする価値を先取りし、当社の進化を示しつつしてきました。製品だけでなく、知見・技術・信頼・人材といった“無形の資産”を社会に届けることが、当社の商社機能の本質であると考えています。

信頼とは、一朝一夕に築けるものではありません。日々の積み重ねの中で誠実に対応し、顧客の立場で物事を考えることで初めて得られるものです。そのため、当社は品質や価格対応のみにとどまらず、顧客との対話を重ねることで付加価値を見出していくことを重視しています。

■ 商社の価値を支える 「人」の力

当社を支えているのは、仕組みや製品ではなく、社員一人ひとりの行動です。どれだけ高度な技術や商材を備えていても、それを顧客の価値へと転換するのは“人の力”に他なりません。

業界や市場への深い理解をもとに、顧客の期待を超える提案ができるか。さらに、その提案が社会課題の解決にもつながるか。それらを実現するには、社員一人ひとりが自ら考え、動き、信頼を築いていくことが求められます。こうした挑戦を後押しするのが、当社が大切にしてきた「寛容の精神」です。若手を尊重し、組織で成長を支える文化が、信頼できる商社の基盤となっています。

人が持つ力は、知識や経験にとどまらず、相手の立場に立って考え、行動し、信頼を勝ち得る“人間力”にあります。社員が成長し続けられる環境づくりも企業の責務であり、その基盤には対話と挑戦を歓迎する風土があると考えています。



■ 社会とともに描く 価値共創の未来

当社は、取引を通じて社会や環境に波及する「豊かさ」を生み出すことを目指しています。素材や製品に加え、その背景にある開発思想や、環境への貢献価値を伝えることも、当社の役割です。

環境配慮型材料やサーキュラーエコノミー関連の素材などの展示会「サステナブルマテリアル展」や化粧品産業技術展「CITE JAPAN」への出展では、機能性と環境性を両立した商材を数多く紹介し、共創型の提案を実践してまいりました。また、交通インフラの発展を後押しするため、インドでは合併会社を設立し、現地の社会課題に寄り添う取り組みを進めています。さらに、国際的なサステナビリティ認証制度である「ISCC PLUS」認証の取得をはじめとした脱炭素対応も、取引先との未来を共に描くための基盤となっています。

共創とは、相手の期待に応えるだけでなく、未来に向けた新しい価値をともに生み出すプロセスです。その中には、異なる文化や業界を超えた連携も含まれており、グローバルな視点と地域密着型の対応力の両立が鍵になります。

こうした一連の活動は、単なるビジネスを超え、社会との新たな関係性を築く一歩であると当社は考えています。

外部環境の 変化にも敏感に

——— 取締役 小野浩司

専門性を追求することで、これまで気が付かなかった外部環境の変化にも敏感なれました。そこで得た情報をもとに、新たなソリューションとして取引先に提案していきたいですね。



第2章

六方よし
世間よし

化粧品産業技術展
「CITE JAPAN」での
多彩な提案

当社は、化粧品業界においてもサステナブルな素材の提案を積極的に展開しています。2025年5月に開催された化粧品産業技術展「CITE JAPAN」では、北海道産の鮭白子由来成分や、ドラゴンフルーツ由来エクソソームなど、天然由来かつ環境配慮型の素材を多数出展し、来場者から高い関心を集めました。製品そのものの性能だけでなく、サステナビリティや倫理性が求められる中、化学品専門商社としての素材選定力と探索力、そして市場ニーズを先読みする提案力が問われています。こうした展示会は、当社の知見と視野の広さを社会と共有する貴重な場です。

化学の力で、社会の期待に応える

オー・ジーは、社会の一員として素材や機能の提供を通じて、人々の暮らしや産業の豊かさに貢献することを大切にしています。素材を「売る」だけでなく、社会が必要とする価値を先取りし、その実装を支援する“つなぐ力”を商社の役割と捉えています。本章では、医薬品や化粧品といったライフサイエンス分野における当社の挑戦を通じて、「世間よし」という考え方をどのように実現しているかを紹介いたします。

エシカル消費への対応

当社では、国内外の仕入先から天然由来・アップサイクル原料を探索・導入し、環境にも人にもやさしい製品づくりを支援しています。その一例が、サトウキビを発酵させた天然由来の1,3-ブチレングリコールをはじめとする代表的な天然原料であり、オーガニックコスメの基盤となる素材です。消費者の選び方が変わるなかで、トレーサビリティや倫理的な調達背景を重視した素材提案は、メーカーの製品価値向上にも貢献しています。

「素材の百貨店」からの脱却

当社は、従来の“多くの素材をそろえる”総合型商社から課題解決型の専門商社へと進化を遂げつつあります。当社グループが保有する設備や知的資産、技術的知見やノウハウ、ネットワークを柔軟に組み合わせ、素材の選定から試作、訴求提案までを一体で支援。顧客とともに課題を見つめ、解決策を編み出す“共創のパートナー”として、化粧品業界の中で確かな信頼を築いています。



化粧品業界との“対話の場”として

2025年5月、パシフィコ横浜で開催された化粧品産業技術展「CITE JAPAN 2025」に出展。当社社員が直接説明に立ち、原料の特徴や応用方法について対話を重ねました。商社の枠を超えた提案姿勢やサンプルに触れられる展示形式に対して、来場者から「開発のヒントになった」との声も寄せられました。素材と社会課題をつなぐ“共創の起点”として、当社の価値を体感いただく機会となりました。

人の健康と命にかかわる、医薬品への挑戦

当社は、高齢化や医療費抑制といった社会課題に対応すべく、医薬品分野においても事業を拡大しています。特にジェネリック医薬品の分野では、アジアを中心としたネットワークを活かし、原薬の探索・輸入から製剤品・最終包装品の海外委託製造までを支援。製薬企業のニーズに応えるだけでなく、社会全体の医療の質と安定供給に貢献しています。

薬事・分析センターが支える信頼の品質

2024年4月には、薬事・分析・特許の専門人材が集う薬事・分析センターを設立。GMP対応、MF登録支援、承認申請補助など、多岐にわたる薬事関連業務を担っています。新設ラボには、ケミカルハザード室、微生物試験室、光安定性試験室を設置し、LC-MS/MS、GC-MS、ICP-MSなどの先進機器も導入。高度な分析力と薬事機能を組み合わせた体制で、製薬企業をトータルに支援しています。センターでの業務は高度な専門性が求められますが、その先には常に「患者の安心・安全」という明確な目的があります。

信頼を社会に つなげる使命

医薬品の品質は、人の健康と命に直結するものです。当社の薬事・分析機能は、単なる検査業務にとどまらず、製薬企業の信頼性向上と、社会の安心に貢献する役割を担っています。さらに、今後は製薬分野の品質保証や国際的な基準への対応強化も視野に入れ、海外との連携も一層拡充していく方針です。

こうした活動を通じて当社は、素材と機能の提案にとどまらず、「社会の信頼に応える」企業としての責任を果たしていきます。これが当社にとっての「世間よし」の実践であり、サステナビリティ経営の重要な柱の一つです。



ご家族に胸を張って誇れるように

取締役 大林弘人

社員の皆さんには、ご家族に胸を張って誇れるような仕事をしてほしいと伝えています。「オー・ジーは環境のためにしっかり取り組んでいる」と言えるよう、私たちは努力を続けていきたい。その取り組み一つひとつが、当社の持続的な成長へとつながっていくと信じています。

スポーツを通じて、 地域と未来を応援

当社は、スポーツを通じた地域・社会貢献にも取り組んでいます。プロゴルファーへのスポンサー契約を通じて、次世代の挑戦を応援するとともに、地域密着型のプロバスケットボールチームへの支援も行っています。競技の舞台を支えることで、地域の活性化や青少年の夢を育む環境づくりに貢献しています。



プロバスケットボールチームを支援

第3章

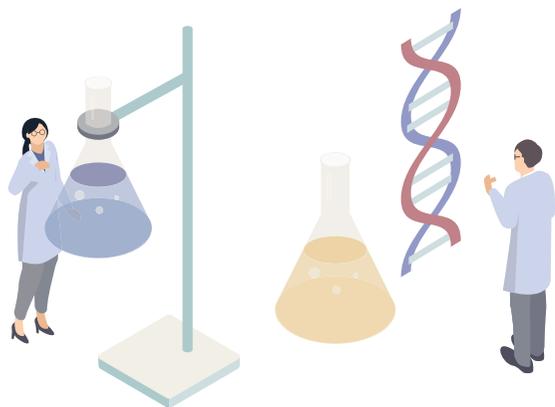
六方よし
環境よし

化学品専門商社として、社会の環境課題に応える力を

素材を扱う企業として、環境への配慮はもはや“選択肢”ではなく、“社会的責任”として果たすべき本質的なテーマとなっています。オー・ジーでは、脱炭素や資源循環、生物多様性の保全といった地球規模の課題に対し、取引先の需要に対応するだけでなく社会全体の課題を先取りし、取引先とともに環境貢献につながる価値創出に取り組んでいます。この章では、当社が化学品専門商社としていかに環境課題と向き合い、持続可能な社会の実現に寄与しているのか、組織的な取り組みや外部認証、個別事例を通じてその全体像をご紹介します。

環境方針

オー・ジーは、創造型化学品専門商社として「人と化学の調和」「未来への挑戦と創造」「豊かさの追求」という経営理念のもと、より豊かな人間社会の実現に向け、循環型社会の形成に寄与するため、右の環境方針を定め実施いたします。



1

環境に配慮した商品の普及拡大活動を推進します。

2

省資源、廃棄物の適切な管理・削減・リサイクルに努めます。

3

環境法規制、及び当社が同意した協定等、その他の基準を順守します。

4

環境マネジメントシステムの継続的な改善に取り組みます。

5

全従業員等に対して本方針に関する教育を行い、確かな理解と意識の向上を図ります。

この基本方針のもと、当社では部署横断で環境課題への貢献に取り組んでいます。

■ 持続可能性を支える、環境マネジメントのしくみ

環境への取り組みを継続的に推進する仕組みとして、ISO 14001に基づく環境マネジメントシステムを構築・運用しています。本社（大阪支店）及び東京支店では2002年に認証を取得し、20年以上にわたり維持・改善を重ねてきました。当社では、エコオフィス、エコビジネスという部門を部署横断で設定しており、省資源化や環境配慮型商材の提案など、業務に即したPDCAを各部門で実践し、取り組みの形骸化を防ぐための見直しや教育活動も進めています。今後もこの仕組みを活用し、環境への貢献価値を提供できる企業体質を強化していきます。

■ ISCC PLUS認証が支える、環境配慮型素材の流通基盤

国際的なサステナビリティ認証制度「ISCC PLUS」を大阪本社で取得しました。これは、再生可能資源やリサイクル原料のトレーサビリティを保証する認証で、化学・包装・食品など幅広い業界での活用が可能です。この取得により、当社は取引先を通じて、環境に配慮した素材の安定供給と製品開発の支援が可能となり、消費者の選択肢拡大にも貢献します。透明性の高いサプライチェーン構築を後押しする点でも大きな意義があります。

当社は「六方よし」の精神のもと、持続可能な社会の実現に向けた価値創出に取り組んでおり、今後もISCC PLUS認証製品の拡充を通じて、企業としての環境責任を果たしてまいります。

仕組みではなく、 行動に落とし込む

執行役員 世木田誠

EMS活動（環境マネジメントシステム活動）は形式であってはならないと考えています。当社はISO認証を取得して20年以上が経ちますが、単にPDCAを回すことが目的化してしまっただけでは意味がありません。今、当社に求められているのは、その先にある社会的な意義をしっかりと見据えることです。環境に真摯に向き合う企業であるためには、ISO認証取得の“本質”を理解し、社員一人ひとりの行動につなげていく必要があります。これからも、その視点を持ちながら改善を積み重ねていきたいと考えています。



環境への貢献価値を備えた素材の進化

持続可能な社会の実現に向け、素材自体が果たす役割はますます重要性を増しています。当社では、バイオマス由来素材や再生原料、アップサイクル製品など、環境負荷の低減に寄与する高機能素材を国内外から選定・提案しています。本ページでは、温室効果ガス排出の抑制や循環資源の活用に貢献する注目素材を紹介し、当社としての探索力と提案力を活かした価値提案例を示します。

egg-shellLeather® (エッグシェルレザー)

卵の殻をアップサイクルした独自のバイオポリウレタン合成皮革。天然由来成分比率を高めつつ、軽量性と高い意匠性を実現しており、アパレルや家具などへの応用が進んでいます。さらに、植物由来ポリオールとの組み合わせによって、石化由来素材に比べてCO₂排出量を最大65%削減可能。高い循環性と環境性能を兼ね備えた、次世代のサステナブル素材として注目されています。

ecologue® (環境配慮型プラスチック)

台湾・CHIMEI社が展開する「ecologue®」は、リサイクルABS、Bio-ABSのような再生樹脂とバイオマス樹脂からなる環境対応型プラスチックブランド。バイオマス樹脂はISCC PLUS認証を取得しており、品質を損なうことなく石化由来プラスチックと互換性を持つ素材として、化粧品、玩具、医療分野で採用が進んでいます。



egg-shellLeather®で作られたソファ

ECOTRION (100%バイオポリオール)

韓国・SK chemicals社が開発した、非可食トウモロコシ由来の100%バイオポリオール。石化原料と同等の物性と加工性を有しており、環境性能を維持しながら従来製品との互換性を実現します。egg-shellLeather®などのサステナブル素材にも採用されており、原料から製品に至るまでの環境影響低減に寄与。バイオポリマーの次世代スタンダードとして期待されています。

バイオGBL (γ-ブチロラクトン)

韓国/CJ社・Korea PTG社が開発するバイオGBLは、サトウキビ等の植物原料を使用し、発酵技術を活用したバイオ化学品。石化由来のGBLと高い互換性をもち、工業薬品や溶剤、電子材料などに応用可能な製品です。特に、カーボンニュートラル対応が求められる分野での検討が進んでおり、品質を担保しながらCO₂排出量の削減とグリーン調達が両立できる素材です。

循環型社会を支える共創と仕組み

環境課題への対応には、製品や素材の選定に加え、それを支える流通構造や再資源化の枠組みが不可欠です。当社は商社としての機能を活かし、素材調達から循環設計、展示会を通じた顧客との共創活動まで、社会実装に向けた取り組みを推進しています。本ページでは、具体的な再資源化スキームや海外拠点との連携による循環支援の事例を紹介し、当社の実践的な役割を明らかにします。

■ タイのリサイクル 樹脂メーカーとの協働

当社は、タイにおいてリサイクル樹脂の先進的製造体制を持つTeampiasグループと連携し、日本およびASEANエリアで同社の再生樹脂「INNOGREEN」を展開しています。同社は廃プラスチックの収集・選別・洗浄・脱臭・再成形までを一貫して対応する供給体制を構築しています。GRS認証を取得し、品質管理の精度も高く、年間8万トンを超える生産能力を活かして安定供給が可能です。自動車や家電などの分野で、リサイクル材の実装を加速する信頼性の高い循環型ソリューションを提供しています。

■ 海外拠点との連携による 素材調達と循環支援

韓国・台湾・タイなど、東アジア地域を中心に形成した素材メーカーとのネットワークを活用し、バイオ・リサイクル原料の現地調達とグローバル供給を展開しています。当社の各海外拠点は、調達と情報収集のハブとして機能し、取引先に対して地域性を踏まえた提案を実施。社会課題と地球規模のサプライチェーンに応える、信頼性の高いパートナーとして評価されています。

■ 展示会での共創型提案活動

サステナブルマテリアル展などの展示会では、環境配慮素材の単独紹介だけでなく、複数素材を掛け合わせた用途提案や、顧客課題に基づくソリューション提案を行っています。egg-shelLeather®やINNOGREENなどを軸に、実際の製品展開や採用シーンを想定したストーリー提案を重視。展示を通じて取引先との対話を深め、新たな価値の共創につなげるきっかけづくりを積極的に行っています。



INNOGREENを活用した自動車部材

第4章

六方よし
株主よし

信頼に応え、未来を共につくる経営へ

オー・ジーは創業以来、時代の変化に応じて事業を変革しながらも、常に変わらぬ価値観を大切にしてきました。それは「信頼を守り続ける」という姿勢です。

100年にわたる歩みの中で、企業の成長を支えてくださった株主の皆様に対して、当社は真摯に向き合い続けてきました。「六方よし」の精神における“株主よし”とは、長期的な視点に立った経営、適切な情報開示、健全なガバナンス体制のもとで企業価値を高め、持続可能な未来をともに築いていくことだと捉えています。これからも、株主の皆様からの信頼に誠実に応えられるよう一層努力してまいります。

100年の歩みで培った、信頼に基づく経営姿勢

1923年の創業から現在に至るまで、当社は化学品の専門商社として、多くの社会的転換点を乗り越えながら事業を拡大してきました。戦後の復興、石油危機、グローバル競争、そしてバブル経済の崩壊といった激動の中でも、当社は「堅実な経営」と「信頼される商い」にこだわり、着実な成長を続けてきました。こうした姿勢の根底にあるのが、株主の皆様を含むすべてのステークホルダーとの誠実な関係です。当社にとっての“信頼”とは、単に過去の実績ではなく、将来を共に歩む上での基盤です。

100周年という節目を越え、当社は今、これまで培ってきた信頼を未来につなぐ責任を強く意識しています。経営理念に掲げる「豊かさの追求」は、経済的な成果だけでなく、持続可能な社会への貢献を含めた、価値創出への挑戦そのものです。

中長期視点で企業価値を高める経営戦略

当社では現在、2033年を見据えた長期経営計画「VISION2033」のもと、「事業ポートフォリオの最適化」「グローバルネットワークの強化」「成長基盤の確立に向けた投資」の3本柱で事業を展開しています。

これらの施策は、単に短期的な業績向上を目指すものではありません。人口動態の変化、循環型社会への移行、デジタル革新など、社会構造の大きな変化を見据え、持続可能な事業運営と企業価値の創出を目指すものです。

加えて、財務の健全性や資本効率の向上にも取り組んでおり、安定的かつ継続的な配当を通じて株主の皆様への利益還元を果たしています。これからも「長期的に信頼される企業」として、成長と還元の両立を目指してまいります。

コーポレートガバナンス体制の進化

企業価値の向上と持続的成長には、透明性の高い経営体制と健全な統治構造の確立が不可欠です。当社では、法令遵守と経営の実効性を両立させるため、多様な手法を取り入れてグループガバナンス体制を構築することにより、リスク管理やコンプライアンス体制を支え、透明性のある公正かつ健全な事業活動の継続に向けた取り組みを推進しております。

2022年には、それまでの「内部統制委員会」を発展的に解消し、海外を含むグループ全体のガバナンス体制を確立するため「コーポレートガバナンス委員会」を設置。四半期ごとに開催され、ガバナンス上の課題や解決に向けての施策等を協議し、定期的に取り締役会へ報告することにより確かな意思決定と対応を可能にしています。

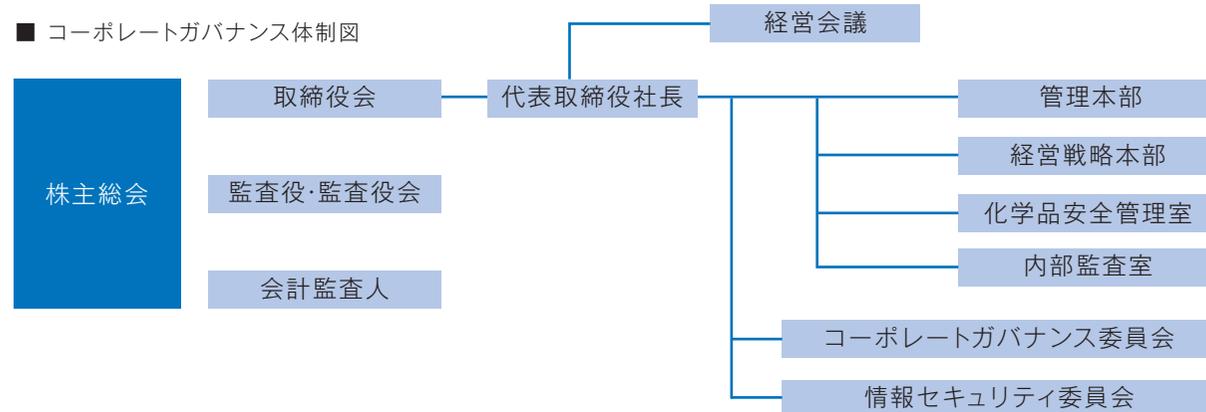
加えて情報セキュリティ面からのガバナンスを確保するため2020年に設置された「情報セキュリティ委員会」は、

情報漏洩やサイバーリスクに備え、デジタル時代の経営基盤を守る役割を担っています。

また、社内外に窓口を有する内部通報制度を運用しており、法令違反や企業倫理に反する行為の早期発見と是正を図るとともに、通報者が不利益な取扱いを受けない体制を整備しています。

さらに、グループ各社でも規模や業態に応じたガバナンス体制を整えているほか、当社監査役は、必要に応じて子会社への監査を実施することにより、経営の信頼性を担保しています。

これらの取り組みを通じて、当社は「株主よし」を体現するための信頼基盤を築いており、引き続き、透明性のある公正かつ健全な事業活動を継続することにより企業価値の向上に努めてまいります。



社員一人ひとりが、 自らの力を信じ、 互いに支え合う

取締役 小林茂

健全な経営には透明性と公平性が不可欠であり、信頼される存在であることが重要です。社員一人ひとりが、自らの力を信じ、互いに支え合うことが、企業の持続的な成長につながっていくと考えています。

第5章

六方よし
社員よし

ともに育ち、ともに働く — 信頼と成長の職場づくり

オー・ジーでは、社員を「人財」と捉え、その成長が企業の持続性を支える礎であると考えています。そのため、当社では社員一人ひとりの成長を促して個性とチーム力の両立を目指すために、独自の人事理念「CREATE」を掲げています。多様な働き方やそれぞれのライフステージに対応する柔軟な制度を整備すると同時に、キャリア形成や挑戦の機会も積極的に提供。安心と挑戦の両立が、社員一人ひとりの力を引き出し、会社全体の活力へとつながっています。

人事理念「CREATE」

Challenge

能動的な行動

環境変化をチャンスと捉え、自らの考えを示し未知の可能性に挑戦すること

Respect

他者尊重・協働

自由闊達なコミュニケーションを通して、他者と相互理解を深め、目的を共有して目標達成へと導くこと

Endeavour

不断の努力・成長

日々の学びを継続し、「知識」を「知恵」に昇華し、解決力・創造力を鍛え成果へと繋げること

Ambitious

大望・情熱

常に挑戦者として不屈の精神を以て「こうありたい自分」「会社をこうしたい」と本気で言える夢を抱くこと

Trust

信頼・誠実

関係するすべての人への感謝の念を持ち、何事にも真摯に向き合うこと

Ethics

品性・誇り

社会の一員として多様性を認め、常に倫理観を持って行動すること

キャリアプラン申告制度

社員が自らのキャリアを見つめ直し、将来の方向性を会社に伝えるための社内申告制度です。申告内容は人事部のみが閲覧するため、安心して申告できる制度設計です。異動の実現を約束するものではありませんが、意思を伝えることで、自らの可能性を切り拓ききっかけとなる仕組みであり、社員と会社の相互理解を深める新たなコミュニケーションツールとして活用されています。

グローバル人財育成制度 (OG Global Apprenticeship)

グローバルな視野を持った次世代人財を育成するための社内公募型育成制度です。20代のうちに海外グループ会社で1年間の実務経験を積むことで語学力や専門性だけでなく、多様な価値観への理解も養います。現地法人での実務テーマに挑戦し、自己推薦・組織長推薦を経て選抜されるこの制度は、“なりたい自分”を実現するためのキャリアの第一歩として、若手社員に広く開かれています。

若手社員のことばで見るオー・ジーの未来

当社では、社員一人ひとりの挑戦を尊重し、若手社員の声に耳を傾けることを大切にしています。多様な経験を経て、自らの意思でキャリアを切り拓こうとする若手たちの姿は、会社の未来を映す鏡でもあります。このページでは、現場で奮闘する社員を代表し、3人の若手社員のリアルな声をご紹介します。入社後に感じた気づき、目指す将来像、仕事への想い。飾らない言葉から見えてくるのは、これからの当社を担う若手社員の“育つ力”です。



香山 健一（化学営業部、2022年入社）

現場研修でプラスチックの製造工程に触れたことで、モノづくりの面白さに気づきました。今は自分が関わるコンパウンドが製品になる過程を楽しみながら、情熱を持って取り組んでいます。“やりたい仕事”に出会えた実感があります。



菊池 大輝（エレクトロニクス営業部、2022年入社）

入社以来、先輩たちの背中を見て多くを学んできました。知識や提案力だけでなく、人との接し方や姿勢に大きな影響を受けています。自分もいつか、後輩たちにとってそんな存在になりたいと思っています。



江口 侑里（製紙薬品営業部、2022年入社）

語学スキルを活かして、海外メーカーとのやり取りを担当しています。新しい分野にも関心があり、今後は化粧品やヘルスケア領域での営業にも挑戦したいです。幅広い分野にチャレンジできる風土を実感しています。

職場をもっと心地よく — 若手社員の挑戦

本社8階に、若手社員5人の発案で新たなコミュニケーションスペースが誕生しました。会議室が足りないという課題から、空きスペースを有効活用するプロジェクトがスタート。形・素材・光・色にこだわり、オフィス家具メーカーの助言やフロア内のアンケートも活用。働きやすさと社員の感性が融合した、当社らしい職場改善の一例です。



若手社員によるプロジェクトチームが発案したコミュニケーションルーム

ありたい姿を 考えるきっかけに

人事部長 小野英紀

キャリアプラン申告制度などを通じて挑戦の機会を増やすことで、若手社員の皆さんが自律的に成長し、キャリアの幅を広げられる環境づくりを推進しています。



健康経営 オー・ジーのWell-being

健康経営宣言

当社の経営理念は「人と化学の調和」「未来への挑戦と創造」「豊かさの追求」です。

仕事のやりがい、働きやすさ、自社を誇れるよう、Well-beingであり続け、新たな価値を創出し、より良い未来を提供するという「ありたい姿」を実現するためには、社員とその家族が心身ともに健康であることを第一義に考えています。

オー・ジー株式会社はWell-being実現のため、さまざまな環境整備に取り組んでまいります。

2024年1月制定

当社の経営理念にある「豊かさの追求」は、経済的な成果だけでなく、社員一人ひとりの人生の質を高めることも意味しており、健康経営はその中核を成しています。

その健康経営の柱として、3つの健康支援サービス(健康アプリ「カロママプラス」・女性のヘルスケアサービス「FEMCLE(フェムクル)」・健康セミナー動画の視聴啓蒙)を開始するなど、社員の健康保持・増進に積極的に取り組んでおります。

さらに、社員の健康保持・増進・運動習慣リスクの軽減を目的として、健康アプリ「カロママプラス」を利用したウォーキングチャレンジのイベントも実施しています。社内ではランキング発表の際などに社員同士の会話も活発に交わされ、楽しみながら健康維持に取り組む機運が高まっています。健康というテーマを、個人の問題ではなく、職場全体で共有する価値と位置づける風土づくりを進めています。加えて、働きがいのある職場づくりにも取り組んでおり、健康経営宣言にあるWell-beingであり続けるために、現在、当社の働き方にマッチした機能的なオフィスレイアウトの再構築を進めています。

社員一人ひとりが、自身の健康や働き方を自律的に考えて行動する。会社はそれを支える仕組みや環境を整備する。この相互の信頼と行動がいきいきとした挑戦を生み、オー・ジーという組織の活力につながっています。“誇れる会社”“挑戦できる職場”として、当社はWell-beingの価値を大切に育んでいます。

「健康経営優良法人2025 (大規模法人部門)」に認定

当社は、2025年3月に経済産業省と日本健康会議が共同で実施する「健康経営優良法人認定制度」において、「健康経営優良法人2025(大規模法人部門)」の認定を取得しました。当社の継続的な健康支援施策や、働く環境の整備、社員の自律的な健康意識向上に向けた取り組みが評価されました。

福利厚生制度

一 働きやすさと働きがいの両立

社員が安心して長く働き続けられる環境を整えるため、当社では多角的な福利厚生制度を展開しています。住宅面では、借上げ住宅制度や独身寮、単身赴任手当を用意し、生活の安定を支援。勤務形態では、在宅勤務、シフト勤務、フレックス勤務などを整備。その他、時間単位から取得できる年次有給休暇、慶弔見舞金制度、育児・介護支援に関する制度などもあり、多様な働き方とライフイベントに寄り添います。社会保険料の会社負担割合は一般的な企業よりも高い60%とし、経済的な安心を後押し。さらに、従業員持株会には拠出額の25%、財形貯蓄には1.5%の奨励金を支給し、中長期的な資産形成をサポートしています。

健康面では、法定項目以上の定期健康診断の実施の他に、健康保険組合による人間ドックなどの各種費用補助があります。また、病気やケガで一定期間働けなくなった場合にも、特別休暇の付与や一部賃金が補償される制度もあり、働く社員とその家族の安心を支える仕組みが整っています。加えて、勤続年数の長い社員に向けてリフレクシユ休暇制度を設けています。また、社員のライフスタイルの多様化に対応し、2023年6月に「福利厚生倶楽部(リロクラブ)」を導入。旅行・レジャー施設の割引、飲食サービス、フィットネス関連や無料の健康相談窓口など多彩な特典が利用できるようになっています。このように当社では働きやすさと安心を、制度というかたちでしっかり支えています。

多様性と心の声に寄り添う 支援のかたち

働きやすさとは、制度や設備の整備だけでは測れません。安心して声を出せる環境があるか、自分らしく働ける土壌があるか——。当社では、社員の多様な価値観や感情に寄り添う取り組みを通じて、目には見えない“働きやすさ”を大切にしています。

その一つが、健康支援サービスとして導入された「FEMCLE」です。女性特有の健康課題やライフステージの悩みに対応するため、アンケート型のオンライン問診や書き込み相談を通じて、気軽に利用することができ、利用者からは「相談できるだけで気持ちが軽くなる」といった声が寄せられています。また、女性社員を対象に、子宮がん検診及び乳がん検診のオプション費用を会社で

負担しており、早期発見・予防への意識づけも支援しています。こうした取り組みは、ジェンダーにかかわらず、一人ひとりの「働き方の違い」に目を向ける文化の醸成にもつながっています。

さらに、月1回実施している「心サポタイム」も、心のケアを日常の延長として考える仕組みのひとつです。社外の臨床心理士による個別面談は、対話を通じて自分の気持ちを整理したり、不安の種に早期に気づいたりする機会になっています。

このように当社は、制度や数値だけでは見えない“感情の風通し”にも意識を向け社員一人ひとりの安心を支え、信頼に満ちた職場文化を醸成することで、チーム力の最大化に繋がっています。

制度の向こうにある“きっかけ”を

総務部長 川端陽子

健康や体調の悩みは、表に出にくいもの。でも、制度やサービスが“行動のきっかけ”になれば、自分の健康と向き合う機会が増えると思います。たとえばFEMCLEも、まずは“病院に行こう”と考えてもらう第一歩になってほしい。誰かが“変わった”と思ってくれたら、それが私の原動力です。



チームの力を 最大限に活用

取締役 竹本弘生

当社では、チームプレーを徹底し、目標達成に向けて組織全体が一丸となって取り組む体制を整えています。一人ひとりが個々の商売を積み上げていくことも重要ですが、ひとりではできないことには限界があります。チームの力を最大限に活用することで、より効率的かつ効果的な仕組みを築き、売上と利益の向上を目指すことが求められています。



社外役員 レビュー

オー・ジーでは、持続可能な企業価値の創出と健全な経営の実現に向け、社外取締役および社外監査役が、経営に対する独立した立場から意思決定の妥当性やガバナンス体制の実効性を監視・監督しています。本レポートでは、長期ビジョン「VISION2033」やサステナビリティの取り組みに対し、社外役員の視点から見た評価や提言について掲載いたします。



社外取締役 原幸雄

オー・ジーは、化学業界における豊富な経験とグローバルネットワークを背景に、多様な分野で高付加価値な素材提案を展開しており、サステナビリティを軸としたビジネスの変革に向けた動きが加速しています。一方で、VISION2033の実現には、グループ全体の事業戦略の一体感と実行力がより問われてくると感じています。市場環境の変化に柔軟に対応しつつ、環境や社会に対する企業責任を明確に打ち出すことで、より信頼される企業像を確立していくことを期待しています。

大手化学メーカーや産業用素材メーカーで要職を歴任。長年にわたり化学業界で培った経験をもとに、2015年6月より当社の社外取締役として経営を監督している。



社外監査役 渡邊明久

経営の健全性と透明性を確保するうえで、ガバナンス体制の継続的な見直しと実効性の確保は不可欠です。特に、VISION2033の達成に向けては、中長期の投資判断や事業選択において、リスク管理と説明責任の徹底が求められます。オー・ジーは、内部統制や情報開示に対する意識が年々高まっており、これをさらに組織全体に根づかせることが、持続的成長の土台となると考えます。今後も客観的な視点から、健全な経営を支える役割を果たしていきたいと考えています。

公認会計士として監査法人トーマツ大阪事務所で所長を務めた後、渡邊公認会計士事務所を設立。企業会計や監査の専門知識を活かし、2017年6月より当社の社外監査役を務めている。

役員一覧

代表取締役会長	福井 英治	薬事・分析センター管掌
代表取締役社長	真銅 淳	
取締役	竹本 弘生	海外事業管掌、プロジェクト推進(紙パルプグローバル・土木建材)担当
取締役	小林 茂	間接部門・医薬事業管掌、秘書室 室長
取締役	大林 弘人	プロジェクト推進(レザー・ファインケミカル)担当
取締役	小野 浩司	国内事業管掌 営業本部 本部長
社外取締役	原 幸雄	
社外取締役	加藤 賢	
監査役	高木 成夫	
監査役	井村 謙次	
社外監査役	渡邊 明久	
社外監査役	赤川 公男	
執行役員	小西 達	大和化学工業株式会社 代表取締役社長
執行役員	世木田 誠	管理本部 本部長 兼 化学品安全管理室 室長 兼 管理経理部 部長
執行役員	西辻 信利	営業本部 東京支店 支店長 プロジェクト推進(コンバウンド)担当
執行役員	小林 真	営業本部 大阪支店 支店長
執行役員	山下 博明	営業本部 大阪支店 副支店長
執行役員	松浦 良崇	グローバル推進 東アジア統括
執行役員	延塚 康彦	グローバル推進 アメリカ統括
執行役員	宮崎 裕章	営業本部 機能化学統括
執行役員	五代儀 純一	グローバル推進 インド統括

2024年

4月

● インドネシア・スタートアップ企業の 持ち株会社へ資本参加

同国において成長が見込めるコールドチェーン市場に関する情報収集などを通じ、新規事業への展開に向けた足がかりを構築。



5月

● インド現地法人がデリー支店を開設

同国・ムンバイに次ぐ重要な経済活動の中心地に開設。主に合成皮革分野関連取引を中心に活動を展開。

10月

● インドネシアにおける 樹脂コンパウンド製造・販売の合併会社を共同設立

タイで樹脂コンパウンドを製造・販売する企業「Siam Eco-Kasei Co., Ltd.」と、インドネシアの多角的企業「PT.Senjaya Tunggal Sakti」と共同出資し、インドネシアで樹脂コンパウンドを製造・販売する合併会社「PT. Senjaya Eco Kasei」を共同設立。

● 環境関連の展示会

「サステナブルマテリアル展」に出展

初出展を含む全14アイテムを展示。創造型化学品専門商社としてアップサイクル原料や天然原料など持続可能な社会の実現に貢献する素材を訴求。



12月

● サステナブルな素材供給を推進する国際規格 「ISCC PLUS認証」を取得

地球環境への配慮と資源の有効活用を目的とした国際認証プログラムの取得により、取引先を通じて再生可能な原料やリサイクル原料を活用した製品開発に貢献。

2025年

1月

● クルマ向け先端技術の展示会 「クルマのサステナブル技術展」に出展

自動車用合成皮革やELV指令対応リサイクル樹脂をはじめ、当社グループ会社が手掛ける車載用バックライトや高性能コンパウンドなどを提案。



3月

● ニチレキグループとインドにおける合併会社の設立に合意

アスファルト応用加工製品の製造・販売や道路舗装工事を手掛けるニチレキグループとインドで合併会社を設立。インド高速鉄道プロジェクトなど同国の交通インフラ整備に対する旺盛な需要に対応。

● 「健康経営優良法人2025(大規模法人部門)」に認定

Well-beingであり続けて新たな価値を創出し、「ありたい姿」の実現に向けて社員とその家族が心身ともに健康であることを第一義に考えた取り組みが評価。

● 12年ぶりとなる社長人事を発表(同年6月就任)

5月

● 化粧品産業技術展「CITEJAPAN 2025」に出展

ライフサイエンス事業の一環として、化粧品分野への展開を本格化。非侵襲型美容パッチ「タコパッチ」や北海道産鮭白子由来の美容成分「オリゴDNA-Na」、ドラゴンフルーツの葉と茎から抽出した「植物エクソソーム」等を提案。



1918

経済近代化

大正時代に創業。M&Aによって積極的に事業を拡大し、戦前・戦中の未曾有の時代を経て製販一体体制をもつ化学品専門商社へ邁進。

● 1917

創業者がキシレンブルーVSを輸入販売

● 1923

「大阪合同株式会社」設立

1945

戦後復興期

戦後復興とともに事業の立て直しを図り、各地に営業拠点を新設。従来の繊維から製紙や化学などの分野を強化。

● 1948

染料の輸入再開

● 1950

年商10億円を突破

1980

高度経済成長期

高度経済成長時代を背景に国内拠点の再整備と積極的な海外展開を強化。製販一体の総合力を蓄積し事業領域を拡大。

● 1961

年商100億円を突破

● 1979

売上高1,000億円を達成

● 1965

東京ビル新築

● 1982

本社ビル新築

● 1990

新経営理念の制定

1991

バブル経済崩壊
平成不況

社名を改称し、第二の創業としてスタート。バブル経済の崩壊で社会の先行きが不透明な中、将来を見据えた企業改革を推進。

● 1991

「オー・ジー株式会社」に改称

● 2002

ISO14001認証を取得

2012

アベノミクス
ニューノーマル

創造型化学品専門商社として新市場を創造する取り組みを加速。環境配慮型商品販売を推進するなど循環型社会の形成に貢献。

● 2012

長期経営計画
「VISION2023」策定

● 2020

研究開発拠点
「オー・ジービル」建設

● 2023

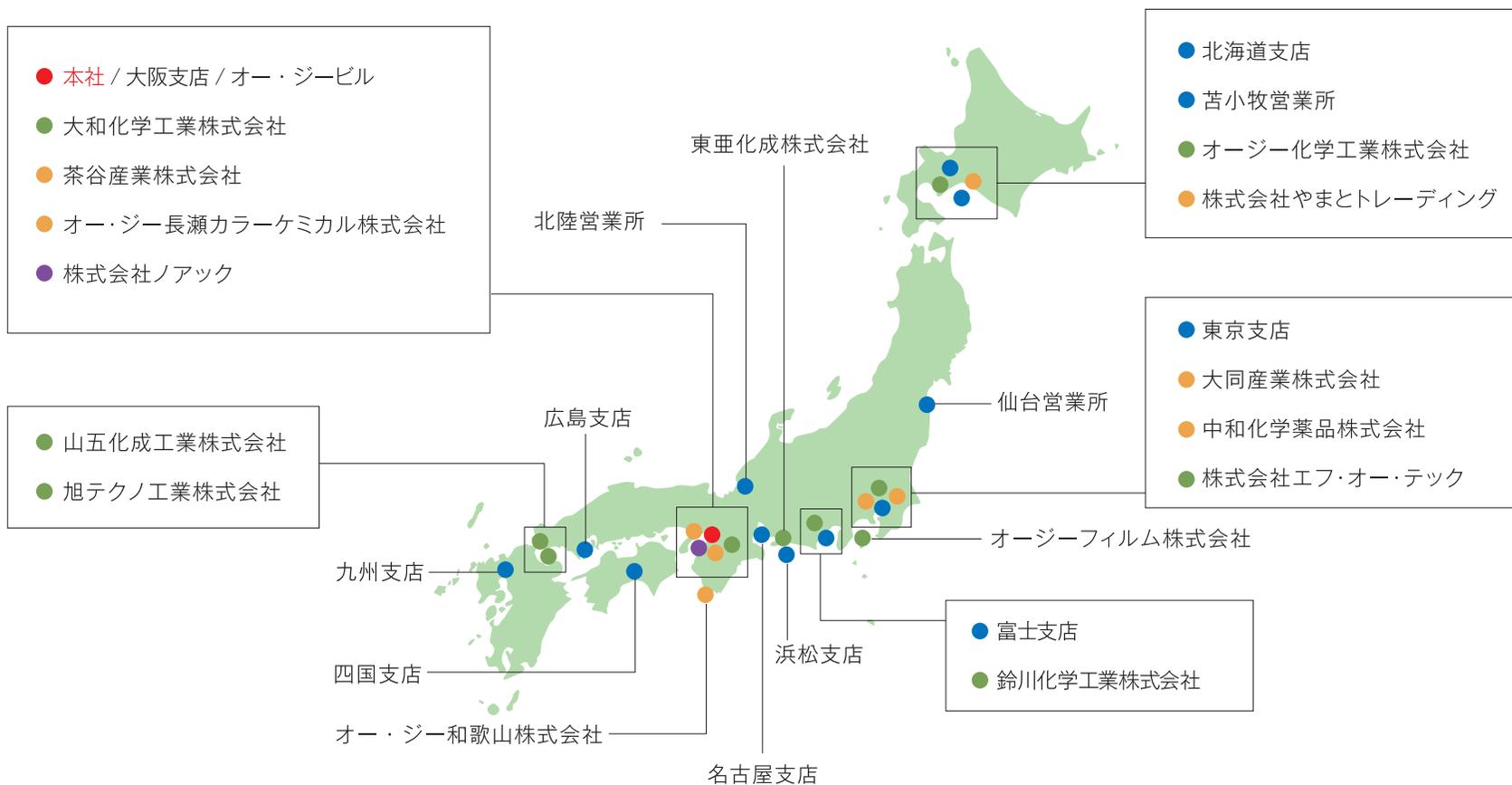
長期経営計画
「VISION2033」始動

● 2023

創立100周年

国内ネットワーク（国内拠点・グループ会社）

● 本店 ● 支店・営業所 ● 商社子会社 ● 製造子会社 ● サービス



経営メッセージ

サステナビリティ
基本方針

インテックス

第1章

第2章

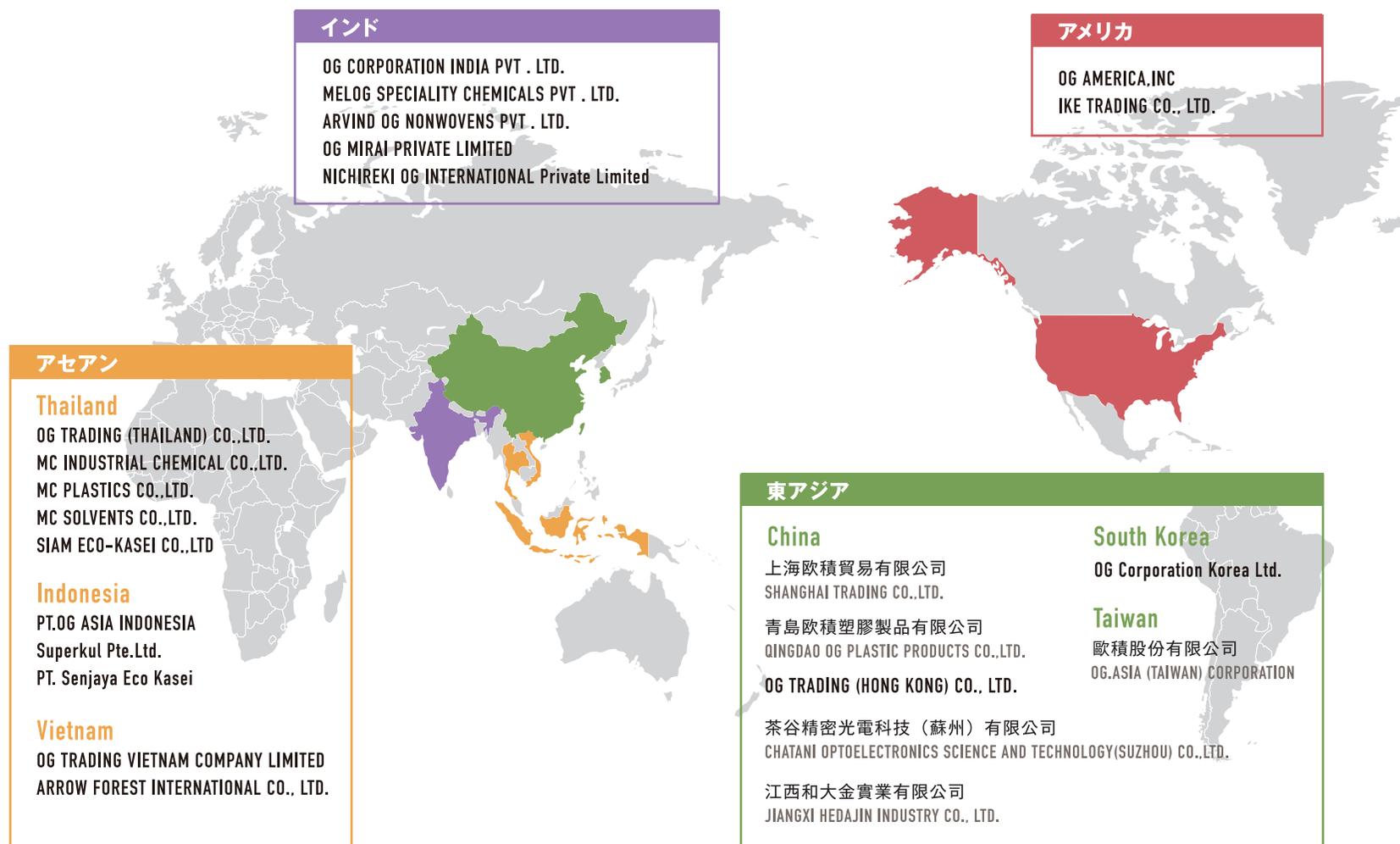
第3章

第4章

第5章

巻末セクション

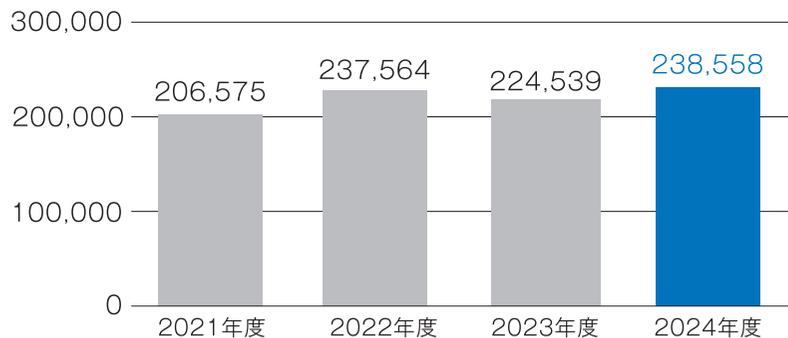
グローバルネットワーク（海外グループ会社）



連結業績の推移

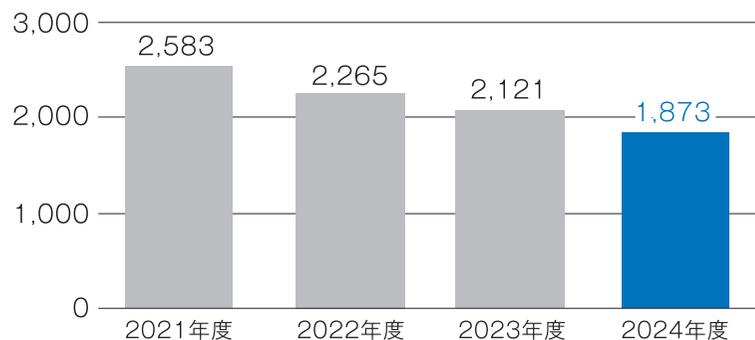
連結売上高

(単位：百万円)

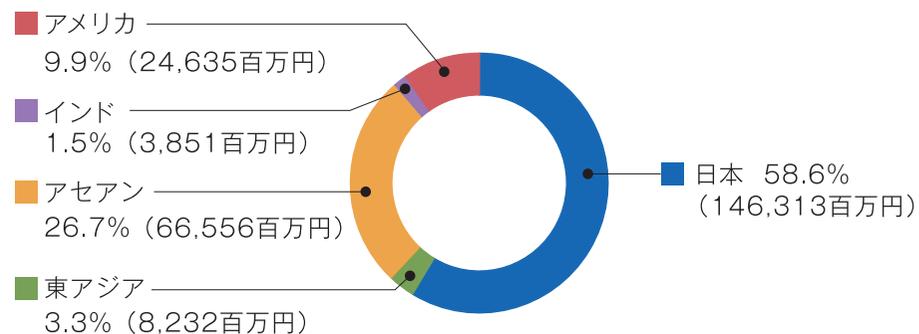


親会社株主に帰属する当期純利益

(単位：百万円)



地域別売上高構成比



当社社員数の推移 (単位:人)

	2022年度	2023年度	2024年度
男性	300	295	292
女性	147	154	161
合計	447	449	453

*各期末時点 *嘱託、契約社員を含む

社員平均年齢の推移 (単位:歳)

	2022年度	2023年度	2024年度
男性	43.1	43.3	43.5
女性	38.8	39.4	39.7
合計	41.7	41.9	42.1

*各期末時点 *嘱託、契約社員を含む

平均勤続年数の推移 (単位:年)

	2022年度	2023年度	2024年度
男性	16.3	16.6	16.7
女性	12.4	12.3	12.5
合計	15.0	15.1	15.2

*各期末時点

編集後記

当社では2024年3月より、Environment（環境）、Society（社会）、Governance（企業統治）の3つの視点から構成される「ESG」をテーマにした社内報「ESG通信」を毎月発行しています。社内限定の媒体として、役員やグループ会社のトップへのインタビュー、展示会出展の報告、人事・総務部門からの制度紹介、入社式や期初のトップメッセージなどを幅広く掲載してきました。さらに、環境に対する考え方や健康経営の取り組みとその狙いについても継続的に紹介し、社員にとってESGを身近なものとするを目的に情報発信を続けてきました。

本サステナビリティレポートは、これらESG通信で扱ってきた内容をベースに構成されています。制度や方針の紹介にとどまらず、現場の実践や社員の声を通じて、当社の価値観や理念をより等身大で社会に届けたいという思いを込めています。

また、一般的なサステナビリティレポートの形式にとらわれることなく、オー・ジーらしさを大切にすべく、「六方よし」の精神に基づいた独自の章立てを採用しました。今後も、社内外の対話と発信を積み重ねながら、持続可能な未来の実現に向けて挑戦を続けてまいります。

広報戦略メンバー一同





【発行日】

2025年8月

【発行】

オージー株式会社 (OG CORPORATION)

〒532-8555

大阪府大阪市淀川区宮原四丁目1番43号

<https://www.ogcorp.co.jp>

【企画・編集】

オージー株式会社 広報戦略メンバー

【取材・制作協力】

落合平八郎広報事務所(合同会社フラットエイト)

【冊子デザイン】

gama design

【著作権・転載について】

本レポートに掲載されている内容の無断転載・複製を禁じます。

